

Title	教育広報専門委員会委員長を辞するに当って
Author(s)	金森, 順次郎
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1980, 39, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65462
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

教育広報専門委員会委員長を辞するに当って

大阪大学理学部 金 森 順次郎

教育広報専門委員会は当センター運営委員会の小委員会で、センターニュース、プログラム相談、講習会などの企画を審議し、運営委員会から委任された事項については決定も行う機関である。

この度、基礎工学部の有本教授に委員長をバトンタッチするに当って、まずこの4年間色々と至らぬことが多かったことをお詫びするとともに、委員会内外の多くの方々から頂いた御協力の厚く感謝の意を表したい。

委員会の当面している問題についてはセンターの10年誌に書いたので、以下では日頃感じていることを書かせて頂く。始めにお断りしておきたいのは、私の専門が理論物理学で、現在のコンピュータといえども昔のタイガー計算器が巨大化したものといった原始的な役割しか果していないとってよい分野である。

もちろんコンピュータが人間の思考領域を拡大する意味で利用された例もある。しかし最初に述べた“そろばん”的役割で因るのは、非常に多くの論文がコンピュータを、結果を意味ありげに見せるために使っていることである。煎じつめると、ある実験結果を意味不明な多くのパラメーターをもった関数でできるだけよく再現しようとするもので、このときコンピュータは大変便利なものである。

阪大のコンピュータは今後ますます発展して行くと考えられるのが、コンピュータを真に創造的な研究に役立たせることが大切である。

これはもちろん教育広報専門委員会の関与することではないが、あえて言えば、センターニュースの資料編は、コンピュータの創造的な利用法についてもヒントが得られるような内容を目指している。